



発行所 十勝毎日新聞社 十勝毎日新聞社 十勝毎日新聞社

衛星最前線



高層団地と、京浜沿いでは、吉野副社長、橋本和彦衛星運
珍しく緑が目立つ横浜市緑区 用部次長らから「やかに迎え
の三保町、幹線道路すくわき
の高低丘を乗り越えた所 一階一室に案内され早速
に、次の視察先、日本通信衛 社の概要を聞く。
星(ロケット)本社、東京
の「横浜衛星管制センター」
があった。来年中に、一ノ級
の大型衛星二基を打ち上げて 運用、衛星搭載のトラ
開始する同社通信専用サービ ス(中継器)をり
の「生命線」ともいえるの ースし、専用サービスを提供
がこの施設だ。

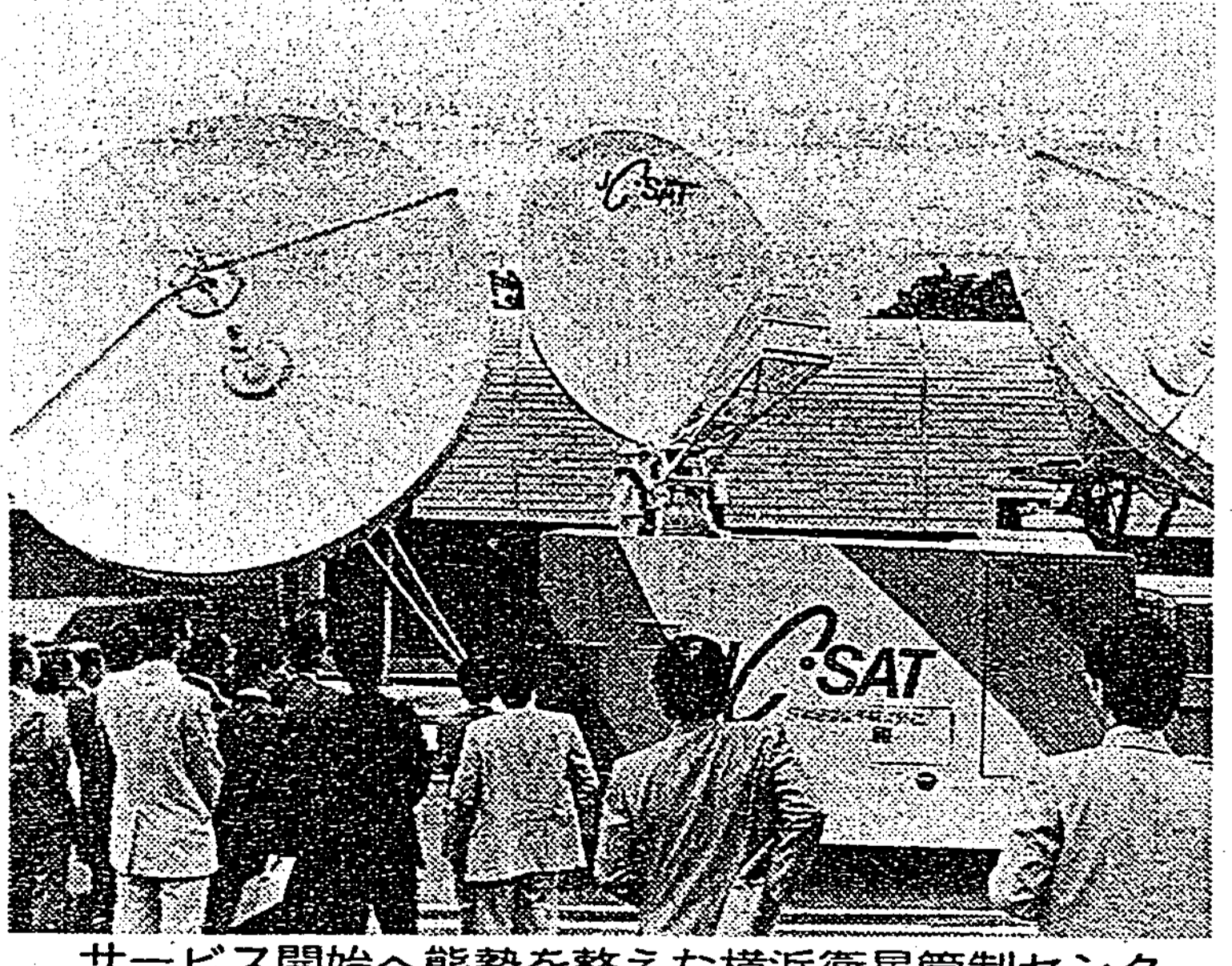
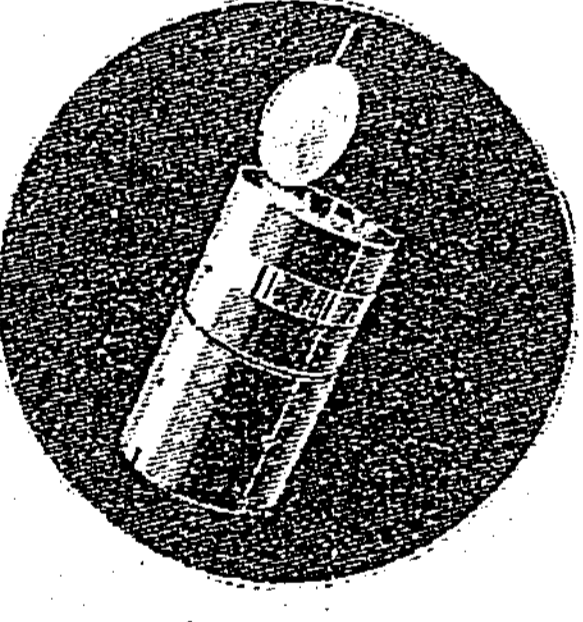
サービス供給

わすか八十人程度の社員数だ が、同種の民間会社で、ほほ 同時期に発足した三菱系の宇 宙通信(本社・東京)とも に、日本での本格的衛星通信 時代の幕開けをもたらす、切 り込み役の存在だ。

打ち上げる衛星は、「世界の 商用通信衛星の七〇%生産の 実績を持つ」(橋本次長とい

中継器リース料5億円

が三十一万、日本のCS(同五・五)を、見る。
その三倍近い。一本当たりの 平均リース料が年間五億円と 聞いて驚いたが、それでも二 基六十四本中、既に三大本 ことが災害などで使えなくな った場合は、群馬に建設済み の無人衛星管制所がバックア ンテナのCATVの番組配給 の無人衛星管制所がバックア ンテナのCATVの番組配給 の無人衛星管制所がバックア ンテナのCATVの番組配給



サービス開始へ態勢を整えた横浜衛星管制センター (手前は車載局)

を中心テレビ各局がこのシ ステムに注目、フジ、日本テ レビ、TBSなどは、トラン スポーター一本で二画面伝送 が可能な宇宙通信(SCC) の二ノ級衛星「スーパーバード」(来年中、六月にアリアン ロケットで二基打ち上げ予 定)の利用契約を既に済ませ ている。横浜からの帰路、立 ち寄った日本テレビ放送網 (東京都千代田区)の加藤芳 孝メディア推進室長は「各局 とも今やニュース戦争。よほ どの特性を持たせないと視聴 者にソッポを向かれる時代に なり、そこで生番組にしのぎ を削るようになった。確かに リース料は高い。だが、報道 戦争を勝ち抜くにはどうして も衛星が必要だ」と語ってい た。衛星利用が企業の生き残 りをかけた重要戦略となり、 一方で、衛星サービスの供 給側にも、選別される時代が 始まっているのだ。

ロケットでI号機を、同七月 米ロサンゼルスにヒュース社 多額のリース料を負担して には米国タイタンIII型ロケッ 倉庫で待機中、社にとっては も、それを回収するだけの価 値を衛星利用に認めているの ぞれ三ヶ月後からユーザーへ 運れた分だけ管制体制も方 だ。

「運れた分だけ管制体制も方 だ。」と語り説明を終えて、衛 問と受け取っています(伊丹 星管制センター内部の管制室 副社長)と屈託がない。
このH3-303型は、一学、外に出て直徑十二センチの大 基壇のトランスポンダーアンテナと二基の小アンテナ

来年二月打ち上げ予定の 「JCSA11号」

んだのは東京に近く運用し やすいの通勤に便利などが 理由。それでは群馬は「と聞 くと「横浜にあまり近いと」 結に災害を被る恐れがある。 近からず遠からずですわね」 (同)と、さり気なく答えが 返ってきた。

とろろ、衛星の代表的利 用形態の一つ「SNG」(サ ービス開始へ態勢を整えた横浜衛星管制センター (手前は車載局)

「衛星を推進、正しく運用 するのが当センターの役割。 基に災害などで使えなくな った場合は、群馬に建設済み の無人衛星管制所がバックア ンテナのCATVの番組配給 の無人衛星管制所がバックア ンテナのCATVの番組配給 の無人衛星管制所がバックア ンテナのCATVの番組配給

「衛星を推進、正しく運用 するのが当センターの役割。 基に災害などで使えなくな った場合は、群馬に建設済み の無人衛星管制所がバックア ンテナのCATVの番組配給 の無人衛星管制所がバックア ンテナのCATVの番組配給

「衛星を推進、正しく運用 するのが当センターの役割。 基に災害などで使えなくな った場合は、群馬に建設済み の無人衛星管制所がバックア ンテナのCATVの番組配給 の無人衛星管制所がバックア ンテナのCATVの番組配給

「衛星を推進、正しく運用 するのが当センターの役割。 基に災害などで使えなくな った場合は、群馬に建設済み の無人衛星管制所がバックア ンテナのCATVの番組配給 の無人衛星管制所がバックア ンテナのCATVの番組配給

(金谷 信記者)